



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのファイナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リップパー

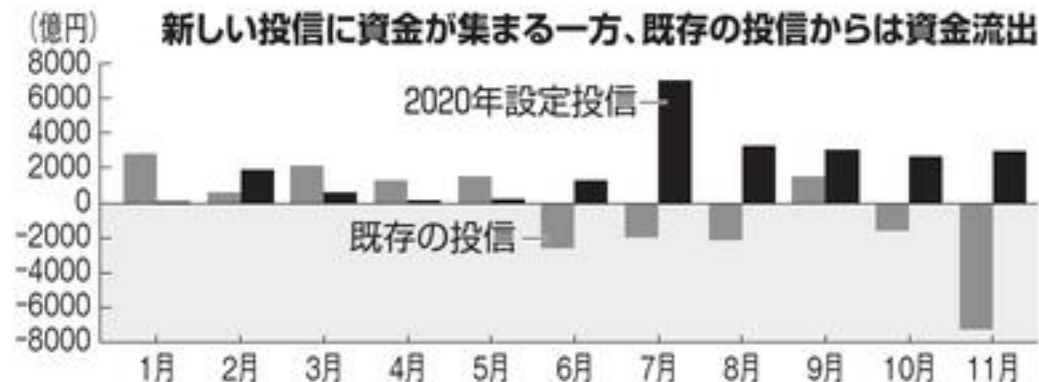
11月までの資金動向

新規投信に継続して資金集まる

2020年11月の上場投資信託(ETF)以外の国内公募株式オープン投資信託は、設定額を解約・償還額が上回りました。流出超過は6月以来5カ月ぶり、リップパーの推計で4312億円の純流出。1～11月の累計は1.8兆円の純流入でした。

全体的には10月までと変わらず、投資対象別ではグローバル株式で運用する投信に資金が集まり、日本株の投信からは流出しています。

同様に、個別銘柄の1～11月の純流出額もこれまでの傾向が続き、純流入1位と2位は今年7月に設定した投信



上場投資信託(ETF)を除く株式オープン投信について、2019年までに設定された投信(既存の投信)と20年に設定された投信に分け、月別に設定額から解約・償還額を差し引いた純流出入額を集計した。11月はリップパー推計

■資金純流出入額ランキング (2020年1～11月)

順位	ファンド名 (☆は20年新設)	資金純流入額(百万円)
〈純流入額トップ5〉		
1	☆グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)(アセットマネジメントOne)	704,915
2	☆デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド(日興)	317,836
3	アライアンス・パーンスタイン・米国成長株投信Dコース毎月決算型(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	266,301
4	ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	178,776
5	投資のソムリエ (アセットマネジメントOne)	172,752
〈純流出額トップ5〉		
1	ひふみプラス (レオス)	-190,314
2	モビリティ・イノベーション・ファンド(BNYメロン)	-97,972
3	野村インド株投資	-88,170
4	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)(日興)	-80,413
5	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)(日興)	-79,196

です=表。この2銘柄に限らず、7月以降は、今年新しく設定された投信に資金が継続して集まっています。以前は新しく投信が設定されると、その募集期間に多額を集めるものが多くありました。今年の新規投信は、追加設定期間に入っても引き続き資金を集めています。

ただ、正直なところ、手放して喜べない点もあります。2020年に設定した投信と19年以前に設定した投信を分けて、資金動向を集計してみました。19年までに設定された投信は、6月以降、9月を除いて比較的大きな純流出額と

なっているのです=グラフ。「新しい投信」は、純粋に投資家の新しい資金が集まったのではなく、既存の投信からの乗り換えもありそうな匂いがします。私には、乗り換え額を検証する手立てがありません。あくまでも推測です。確かに、低調な運用の投信や時流に合わない投信をやめて、今後に期待できる投信に乗り換えるのは適切な判断といえます。それが既存の投信との間で十分に比較した結果、乗り換えがふさわしいと決断したのなら問題ありません。「新しい投信」というキャッチフレーズに踊らされていなければ良いのですが。

上場投資信託(ETF)を除く株式オープン投信について設定額から解約・償還額を差し引いた。リップパー推計